

別紙様式 1

令和 4 年度川尻中学校区研究推進計画

校番 (2 7) 吳市立川尻小学校

校長名 森田 修一

1 学校教育目標

郷土を愛し、自立する子どもを育てる
～挨拶とボランティア、夢や目標への挑戦～

2 目指す児童生徒像

- 基礎学力を身に付け、自分の考えを進んで表現できる児童生徒
- 地域を愛し、感謝と思いやりの心を持ち、貢献しようとする児童生徒

3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自立・郷土愛
後期	各教科における基礎学力を確実に身に付けることができる。	既習事項を関連付けたりよりよい表現方法を検討したりしながら、自分の考えを効果的に伝えることができる。	自分で目標を決め、主体的な計画のもとに進んで取り組むことができる。(自立) 故郷への愛着と誇りをもち、故郷に進んで貢献しようとするすることができる。(郷土愛)
中期	各教科における基礎学力を確実に身に付けることができる。	自分の考えを相手や目的に合わせた適切な方法で伝えることができる。	自分で目標を決め、やるべきことに計画的に進んで取り組むことができる。(自立) 地域の一員として地域に感謝や思いやりの心をもって行動することができる。(郷土愛)
前期	各教科における基礎学力を確実に身に付けることができる。	分かったことや考えたことを分かりやすく伝えることができる。	目標をもち、やろうと決めたとことに粘り強く取り組むことができる。(自立) 体験を通して地域の人や自然の良さを知り、地域に愛着をもつことができる。(郷土愛)

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学ぶ児童生徒を育成する教育活動の創造
－児童生徒が問いを発する授業づくりを通して－

(2) 設定理由 (校区の児童生徒の課題分析等)

昨年度より、問いを発する授業づくりを通して主体的に学ぶ児童生徒を育成するために、授業改善を図ってきた。具体的には、単元や本時の目標を明確に意識させ授業に臨ませ、自分の考えを広めたり深めたりできるような対話を取り入れた授業を行った。また、振り返りにおいて新たな問いや自分の課題が明確になるようにした。さらに、児童生徒に誤答から問いを生ませるなどの工夫を取り入れてきた。

このような授業改善を図ることにより、どのようにしたら児童生徒が問いをもつようになるか考え、導入や授業展開を工夫するようになった。しかし、一方で、児童生徒が問いを発見することが難しかったり、問いを追求していく上で固定化した児童のみの意見で対話が進んでいったりするといった課題が残った。また、令和3年度全国学力学習状況調査(中学校)の生活と学習に関する調査において、『授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。』という設問において、肯定的な回答をした生徒は、広島県が70.1%に対し、本校では67.7%と2.4ポイント低かった。これは授業において導入の工夫を行ってきたが、授業の流れが教師主導になってしまい児童生徒が問いをもって課題に向かうことが十分ではなかったためであると考えられる。

今年度は、「主体的に学ぶ児童生徒を育成する教育活動の創造」のため、このような昨年度の課題を反映させ、「児童生徒が問いを発する授業づくり」について引き続き研究を行っていく。具体的には、「川尻中学校区の授業モデル」を改善し、問いについてグループで自分の考えと他者の考えを比較したり、関係付けたりして話し合う時間を設けるなど授業展開を工夫することで、出てきた問いをどの児童生徒も主体的に追求していけるようにする。また、問いについて話し合うことで、どのように児童生徒の考えを深めさせていくか児童生徒の姿を具体化し、その方法を明確化しておくことで、教師が話し合いをうまくファシリテートできるようにする。さらに、家庭学習においても予習・復習を行わせ、授業に臨ませることで主体的な学びへとつながるようにする。

問いをもち主体的に学ぶ意欲を向上させるため、単元づくりにおいても、本質的な問いや単元全体の課題を設定し、児童生徒に学びの必要感を感じながら学習に臨ませるようにしていく。また、問いを発する授業づくりのイメージを全教職員でさらに具体化し研究を進めていけるように、教師同士が授業を見合い、議論する機会を定期的に設定して授業づくりの向上を図っていく。

さらに、児童生徒の学習の基盤となる学校生活を充実したものとするため、「確かな学力」「夢や志を育む教育」「健やかな体」の3部会で行い進めていく。

(3) 研究仮説

1人1人が思考を働かせる場を位置づけた「川尻中学校区の授業モデル」を基に、児童生徒が問いを発する授業づくりを工夫し、児童生徒が主体となって課題解決を積み重ねていけば、児童生徒自ら学ぼうとする意欲が高まり、学習内容が定着するであろう。

5 研究内容

(1) 学力向上に向けての取組

- ① 「課題発見・解決学習」をもとにした「考える授業」の実践
- ② 表現力の向上
(「条件付き作文」や「生活ノート」によって書く力をつける)
- ③ 学力補充教室など個別指導の充実
- ④ 読書活動の充実
- ⑤ 家庭学習習慣の定着に向けた取組(「家庭学習の手引き」や「補充教室」の活用)

(2) 夢や志を育むキャリア教育

- ① 無言清掃への取り組み方を統一して実施。
(「もくもく掃除」や「無言清掃」の意識を高め、良さを実感させる)
- ② 小中交流での地域貢献(挨拶運動、小中合同清掃活動(4・9清掃)等)

(3) 食育や体力向上に向けての取組

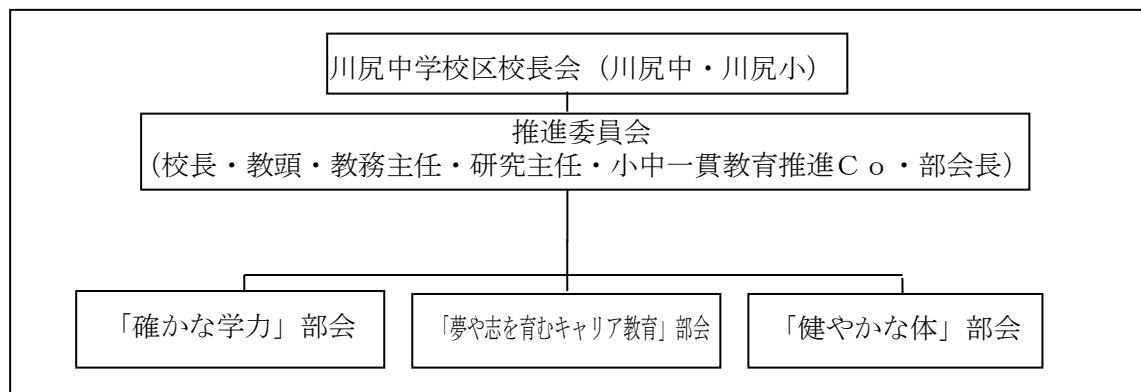
- ① 「食育の9年間のストーリー」を活用した小中一貫の食育
- ② 定期的な小中一貫の「元気アップ3DAYS」の実施
- ③ 「くれチャレンジマッチスタジアム」への積極的な参加

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 各教科において、資質・能力の育成に重点をおいて「考える授業」を実施することにより、主体的に学ぶ児童生徒を育成することができたか。	児童・生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価	—	80%以上
	教師アンケート	教職員の肯定的評価	—	80%以上
② 「書く力」の向上が見られたか。	児童・生徒のレポート	文章構成や文字数、キーワード等の条件に沿って書いている。	小学校 57%	小学校 80%以上
	全国学力・学習状況調査の結果	国語科における書く能力の正答率	中学校 54.6%	中学校 70%以上
③ ボランティア活動などの体験活動を通して、1人1人の良さを認め合い、お互いを尊重し合うことで、自尊感情が育ち、地域に対して愛着・自立・貢献しようとする気持ちが向上したか。	児童・生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価	—	90%以上
④ 小中一貫で、「元気アップ3 DAYS」や「くれチャレンジマッチスタジアム」の取り組みの充実を図り、食育や体力向上を図っているか。	児童・生徒アンケート	児童・生徒アンケート	84%	90%以上

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- 外国語 (英語教員による) : 小学校第6学年 (各学期に1回程度)

(小→中)

- 学級活動 (栄養教諭による) : 中学校第1・2・3学年, 特別支援学級 (小→中)

イ 小学校教科担任制等

- 第3～6学年 理科
- 第3・4学年 図画工作
- 第4学年 書写
- 第5・6学年 音楽
- ※高学年で交換授業 4月になってから決定

8 推進計画

月 日	内容	
	川尻中	川尻小
5月2日(月)	全体研修(今年度の方向性)	
10月27日(木)	授業研究(5年)	
11月8日(火)	授業研究(7年)	

9 その他

- 各校での取組の様子が交流できるよう小中一貫便りを学期に1回発行する。

